



2007年7月22日

いま起きつつあること…

「かわら版」を
出したりとに
しました！

「この国は一度と戦争
をしないんだ！」

中学生の頃、憲法について勉強した時に嬉しくなったことをよく覚えていました。9条の「永久にこれを放棄する」という言葉が戦後生まれの15歳の私にも何だかとても気高く思えたものです。

「憲法なんて難しい」とはよく分からぬ、「憲法? ピンとこないんだよね」、「教会と関係あるの?」など思ふかも知れません。でも

「そうこうわけで、日本中

の土台を問われましたね。岩の上か、砂の上かと。今、私たちの周りに起きていることは、私たちが土台をどうするのかということが問われているところです。

唐澤健太（日本中会神学・社会委員会委員長）

実際、私たちが憲法「改正」を実現させるための法案として反対していった「国民投票法案」が成立し、今や「改憲」新憲法制定への道筋がはっきりと政治スケジュールとして描かれています。

イエス様は家を建てる時の土台を問われましたね。岩の上か、砂の上かと。今、私たちの周りに起きていることは、私たちが土台をどうするのかということが問われているところです。それでもよいでしょう。

★おすすめ本



『憲法が変わつても戦争に
なるない』
と思つてゐる人
のための本
著者 高橋哲哉・斎藤貴男編著
日本評論社

憲法は古くなつたから、新しくしたほうがいいんじやないですか？ テロの危険などもあるし、きちんと防衛できるようにしておいたほうがいいのでは？

—多くの人がもついろいろな疑問に、さまざま立場の人々がわかりやすく答えていて、どうして憲法が変えられるようとしているか、変えるとどうなるかがとてもよくわかる本です。

日本国憲法は「国際社会の常識にそぐわない」、「押し付けられた憲法だ」、「新しい憲法を！」といった声が政治家や経済界を中心の大いくなっているようです。

20条で「思想および良心の自由」「信教の自由」が保

障されているからです。憲法は私たちの生活と遠いものではなくて、最も近いもの、「土台である」と言つてもよいでしょう。

かわら版「いま起きつつあること」を創刊することになりました。憲法を変える? 变えない? という議論の前に、「これだけは知つておきたい」情報を伝えて、皆さんとともに、「この国でいま起きつつあること」の本当の意味を考えていきたいと願っています。